

**平成28年度地方独立行政法人静岡県立病院機構
被曝放射線量測定検査業務(平成28～32年度)仕様書**

1 適用

この仕様書は、甲の被曝放射線量測定検査業務に適用する。

2 概要・目的

甲における放射線作業に従事する職員が作業中に受けた放射線量を正確に管理し、放射線障害を防止することを目的として放射線の外部被ばくによる線量の測定を行う。

3 業務実施の原則

- (1) 本業務は、契約書及び仕様書に基づいて、誠実に実施しなければならない。
- (2) 業務の実施にあたっては、関係する諸法令を遵守し、乙の負担と責任において行うものとする。
- (3) 作業の中で、関係官公署、その他の者に対する届出、報告を要する場合、乙は迅速に対応するとともに、必要な書類を作成しなければならない。
- (4) 作業を実施する上で、関係官公署、その他の者に対して交渉を要するときは、乙は遅滞なくその旨を甲に申し出て協議するものとする。

4 対象施設

県立総合病院 静岡市葵区北安東4丁目27番1号
県立こころの医療センター 静岡市葵区与一4丁目1番1号
県立こども病院 静岡市葵区漆山860

5 業務手順

- (1) 甲は、必要とする下表の性能を満たす測定検査バッジの数量を乙に申し出、乙はその数量を甲に送付するものとする。

種 類	規 格	月あたり数量		
		総合	こころ	こども
広範囲	X・ γ ・ β 線測定用	210	1	70
熱・高速中性子	X・ γ ・ β ・中性子線測定用	40		
手指用	X・ γ 又は β 線測定用	25		15

広範囲	X・ γ 線	β 線	中性子線
測定線量範囲	0.1mSv～10SV		—
測定エネルギー範囲	10keV～10MeV	300keV～3Mev	—

熱・高速中性子	X・ γ 線	β 線	中性子線
測定線量範囲	0.1mSv～10SV		熱中性子線 0.1mSv～ 6mSv 高速中性子線 0.2mSv～50mSv
測定エネルギー範囲	10keV～10MeV	300KeV～10MeV	熱中性子線 0.025eV～0.5 e V 高速中性子線 100keV～10MeV

手指用	X・ γ 線	β 線	中性子線
測定線量範囲	0.2mSv～1Sv	0.4mSv～1Sv	—
測定エネルギー範囲	25KeV～3MeV	150Kev～3MeV	—

- (2) 甲は、測定検査バッジを1か月間使用した後、速やかに乙に返送するものとする。
- (3) 甲が、測定検査バッジの送付を追加で依頼した時は、乙は、原則として翌営業日までに発送することとする。
- (4) 乙は、返送された測定検査バッジを速やかに測定し、その結果を甲に報告するものとする。結果報告については6に定める。
- (5) 乙は、測定検査バッジの使用期限終了までに次回分の測定検査バッジを装着可能な状態にして甲に送付するものとする。

6 結果報告

電離放射線障害防止規則第9条の規定に基づき、次のとおり報告書を作成すること。

- (1) 「被ばく線量測定報告書（着用周期別）」を病院毎に作成し各病院へ速やかに送付すること（過去4年度分の測定結果の入力を含む）。
- (2) 「被ばく線量測定個人報告書」を病院毎に作成し、各病院へ速やかに送付すること。
- (3) 毎月作成する測定報告書のデータを電子媒体にて無料で提供できること。
- (4) 測定結果の電子情報は、関連法規に準拠した様式で出力できること。また、出力に特定ソフトウェアが必要な場合は、これを無料で提供すること。
- (5) 個人被ばく線量の過去データは、法令改正毎に集計値をまとめ、報告書に表記すること。測定データは、必要に応じて無料で提供できること
- (6) 測定結果は、継続した情報として、積算値に反映すること。
- (7) 結果報告の再確認するため、体幹部用測定器については、測定後3ヶ月間は再測定が可能なこと。

7 疑義

仕様書その他に関する疑義の点は、予め契約前に明確にしておくものとし、契約後疑義を生じた場合は、甲の指示に従わなければならない。

8 報告書等送料

測定検査バッジ及び測定結果報告書等の送料は、全て乙の負担とする。

9 損害賠償

作業は誠意をもって慎重に行うものとし、万一構造物又は機器に損害等を与えた場合は、速やかに甲に連絡して指示を受けると共に、乙の責任において事故復旧するものとする。

10 緊急報告

- (1) 緊急の事態が発生した時には、速やかに測定・結果判定を実施し、甲へ連絡すること。
- (2) 測定した結果、基準以上の被曝があった場合は、速やかに甲へ連絡すること。